

2016年(平成28年) 3月7日 月曜日

大脇商店の岩田和也常務は3日、レアメタル資源再生技術研究会・オープン合同分科会で同会理事として講演を行い、ネオジム磁石リサイクルの現況について「価格下落の影響で磁石を解体せずに海外に輸出する動きが加速している。また、今後の相場反発を待ち長期に渡って保管する動きなどもあり、国内におけるネオジム磁石スクラップの発生量は減少している」との認識を示した。

同社は岐阜県美濃加茂市に太田工場、同県恵那市に恵那工場を構え、大脇グループとして大脇金

大脇商店・岩田和也常務が講演

ネオジム磁石スクラップ 国内発生量は減少



岩田常務 保の観点からネオジム磁石の国内リサイクルの重要性を訴えた。

属、オオワキなどを有する。岐阜地区の大手ヤーディーラーとして知られる。ネオジム磁石スクラップ相場は2011年頃をピークに下落傾向にある。その一方、ネオジム磁石を含む廃機器の発生量に関しては「大きな変化はないと聞いている」と語った。だが、現状に

ついては「レアメタル価格の低下で、リサイクルに取り組む際の金銭的な魅力がなくなってきた」と採算性が悪化していると分析。具体的には価格低下の影響で「解体分離の費用と海外への売却価格に差がなくなってきた。そのため国内で解体分離が行われなくなってきた

いる」ことを指摘。資源確保の観点から